

①課程No.	1
②科目No.	養 1

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教育概論	必修	2	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 13, 20, 31, 37, 38, 39, 43, 49	中原 郷子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	・日本語教育を取り巻く社会的状況を理解し、日本語教育の必要性を理解するとともに、日本語教師に求められる資質や能力、知識に触れることで、「日本語教師」とはどのような職業か、具体的にイメージできる。 ・日本語教育が必要とされる社会的背景を考えるために、国際社会の実情と日本との関係、日本の社会・文化、学習者と日本との関係を理解する。 ・日本やほかの国・地域とのかかわりを視野にいたれた日本語教育の歴史について理解する。 ・日本語学習者の多様性についてデータなどで確認した上で、実際にインタビューをすることで、日本語学習者の実態を知る。				
⑩授業の概要	・資料をもとに、国内外における日本語教育の現状と求められる教師像を理解する。 ・日本語教育学を概観し、日本語教師に必要な知識に広く触れる。 ・日本語学習者にインタビューを行い、日本語学習者の存在を身近に感じる。 ・日本語教師、日本語教育が社会において求められている役割について理解する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション：この科目の概要について理解する 日本語教育：国語教育、英語教育との共通点と相違点について考える 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。 （事後学習）課題「日本語教師に求められる資質・能力とは」についてまとめる。				20
2	日本語学習者（1）：海外の日本語学習者と国内の日本語学習者（留学生、外国人労働者、日本語指導が必要な児童・生徒）について学ぶ 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.20-29を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）LMSに出題される課題に回答し、提出する。				1, 2, 3, 7, 13
3	日本語学習者（2）：多様な日本語学習者に対する日本語教育プログラム、日本語能力を測定する試験、「日本語教育の参照枠」について学ぶ 【授業外学習】 （事前学習）「日本語教育の参照枠」報告の「はじめに」を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）LMSに出題される課題に回答し、提出する。				6, 31
4	日本語教師：制度、試験、職場と雇用、海外に赴く日本語教師に求められる資質、日本語教師の資質・能力、日本語教育人材として求められる対人関係能力について学ぶ 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.30-38を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）LMSに出題される課題に回答し、提出する。				20, 49
5	日本語史：標準語と共通語、音韻の変遷、国語に関する世論調査を踏まえた日本語の変化について学ぶ 【授業外学習】 （事前学習）「国語に関する世論調査」結果の抜粋資料を読んで、日本語の使い方にどのような変化が起こり、言語使用に対してどのような意識の変化が起こったか考える。 （事後学習）LMSに出題される課題に回答し、提出する。				9

6	<p>言語の類型と世界の諸言語：世界の言語および日本語の系統的・類型的分析，日本語と世界の言語の比較を通して，日本語がどのような言語か知る</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）「言語類型論」に関する配布資料を読んで，日本語はどのような言語か特徴を捉えておく。</p> <p>（事後学習）LMSに出題される課題に回答し，提出する。</p>	37, 38
7	<p>学習者から見た日本語：誤用，オノマトペ，日本語の動詞を例に「日本語学習者から見た日本語」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書pp.81-88を読んで，ワークシートに回答する。</p> <p>（事後学習）LMSに出題される課題に回答し，提出する。</p>	39, 43
8	<p>ティーチャートークとやさしい日本語の共通点について知り，どうすれば「やさしい日本語」になるか演習を通して理解する</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書pp.89-98を読んで，ワークシートに回答する。</p> <p>（事後学習）LMSに出題される課題に回答し，提出する。</p>	3, 9
9	<p>インタビューのオリエンテーションと計画立案</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）日本語学習者に質問したいことを考え，その理由も含めて書いてくる。</p> <p>（事後学習）計画に従い，インタビュー活動を行う。</p>	7
10	<p>日本語教育の歴史と現状，言語政策について学ぶ</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）「日本語教育史」に関する配布資料を読んで，各時代の特徴を捉えておく。</p> <p>（事後学習）LMSに出題される課題に回答し，提出する。</p>	1, 4, 5, 7, 9
11	<p>日本語学習者へのインタビューをまとめる（1）ポスター作成</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）計画に従い，インタビュー活動を行う。</p> <p>（事後学習）発表準備を行う。</p>	7
12	<p>日本語学習者へのインタビューをまとめる（2）ポスター作成・仕上げ・発表練習</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）インタビュー内容をまとめ，発表できる形式にする。</p> <p>（事後学習）発表準備を行う。</p>	7
13	<p>インタビュー活動の発表（1）前半グループの発表とピア評価</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）発表準備を行う。</p> <p>（事後学習）発表ピア評価を提出する。</p>	7
14	<p>インタビュー活動の発表（2）後半グループの発表とピア評価</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）発表準備を行う。</p> <p>（事後学習）発表ピア評価を提出する。</p>	7
15	<p>これからの日本語教育の目指す方向，そこで求められる教師像，日本語教師の役割とキャリアパスについて学ぶ</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書pp.140-149を読んで，ワークシートに回答する。</p> <p>（事後学習）LMSに出題される課題に回答し，提出する。</p>	1, 2, 3, 9, 20, 49
⑫使用テキスト		森篤嗣（編著）（2025）『改訂版 超基礎・日本語教育』くろしお出版

⑬参考書・参考資料等	高見沢孟ほか（2016）『新・はじめての日本語教育1〔増補改訂版〕』アスク出版 ヒューマンアカデミー（2021）『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版』翔泳社 など
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）	—
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）	—
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）	期末レポート30%，プレゼンテーション40（発表30，準備10）%，宿題30%

①課程No.	1
②科目No.	養 2

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語学概論	必修	2	1, 8, 10, 11, 13, 14, 37, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 48	安田 眞由美	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマ： これから日本語教育を学ぶ人や日本語教師という仕事に関心のある人，また留学やボランティア活動などで日本語教育に触れ，日本語やその学び方に興味をもった人を対象に，日本語教育の視点から日本語学の基礎的な知識を学び，多角的に日本語を捉える力を養う。 到達目標： 1) 日本語学における音声，語彙，文法，文字，談話などの基礎的な知識について，具体例を用いて説明することができる。 2) 日本語を言語的な観点から分析し，その構造や特徴を整理して述べることができる。 3) 日本語学習者の視点に立って，日本語の習得上の難しさや誤用の要因を推測し，指導上の留意点を考えることができる。				
⑩授業の概要	テキストの内容をまとめたPPTを使用しながら，主に講義形式で授業を行う。理解の程度を確認するため，随時，質問しながら進めていく。授業8回目に中間テスト，15回目に期末テストを実施する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション 世界のなかの日本語（日本語ってどんな言語，学習者の日本語から，日本語について考える） 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読んで，この科目の目的，各回の内容について理解する。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをもとめ，復習しておく。教科書（p.12-p.19）を読んで，本日も学んだことを確認する。				1, 13, 37, 39
2	音声（1）一母音・子音（日本語の音，日本語の母音，日本語の子音，音声と音韻） 【授業外学習】 （事前学習）教科書（p.20-p.31）を読む。 （事後学習）ノート，教科書（p.20-p.31）を読み，術語を確認する。教科書（p.24）の課題3をやる。				39, 40
3	音声（2）一拍・アクセント・イントネーション（拍，アクセント，イントネーション），教科書（p.24）課題3の確認 【授業外学習】 （事前学習）教科書（p.32-p.42）を読む。 （事後学習）ノート，教科書（p.32-p.42）を読み，術語を確認する。教科書（p.37）の課題3をやる。				39, 40
4	文字表記（1）一文字の種類（日本語の文字は何種類？，文字の種類による特徴，かなの正しい表記・正しい読み方，文字のイメージ），教科書（p.37）課題3の確認 【授業外学習】 （事前学習）教科書（p.43-p.53）を読む。 （事後学習）ノート，教科書（p.43-p.53）を読み，術語を確認する。教科書（p.47）の課題4をやる。				39, 41
5	文字表記（2）一漢字に関する基礎知識（学習する漢字の数，漢字のイメージ，漢字の何を学ぶのか，漢字学習は同じことの繰り返し？，漢字系と非漢字系），教科書（p.47）の課題4の確認 【授業外学習】 （事前学習）教科書（p.54-p.63）を読む。 （事後学習）ノート，教科書（p.54-p.63）を読み，術語を確認する。教科書（p.56）の課題2をやる。				39, 41

6	<p>語彙・意味（1）一語の定義・語彙量・語構成・語種（あなたは語をいくつ知っていますか？、語の定義と語構成、語種による日本語の印象）、教科書（p.56）課題2の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.64-p.72）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.64-p.72）を読み、術語を確認する。教科書（p.69）の課題3をやる。</p>	39, 42, 44
7	<p>語彙・意味（2）一類義語・多義語・言語間の意味のずれ（語と語の関係、類義語、対義語、上位語と下位語、多義語と同音異義語、言語間の意味のずれ）、教科書（p.63）課題3の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.73-p.86）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.73-p.86）を読み、術語を確認する。教科書（p.78）の課題5をやる。中間テストに備え、第1回目の授業から第7回目の授業内容を復習する。</p>	39, 42, 44
8	<p>文法（1）一学校文法と日本語教育文法（日本語教育文法とは、品詞、動詞の活用）、教科書（p.78）課題5の確認、中間テスト</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.87-p.96）を読む。中間テストに備え、第1回目の授業から第7回目の授業内容を復習する。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.87-p.96）を読み、術語を確認する。教科書（p.91）の課題3をやる。</p>	39, 43
9	<p>文法（2）一日本語の文と助詞（日本語の文の種類、格助詞、「は」と「が」）、教科書（p.91）課題3の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.97-p.106）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.97-p.106）を読み、術語を確認する。教科書（p.99）の課題1をやる。</p>	39, 43
10	<p>文法（3）一時に関わる表現（文法で示すいろいろな要素、時間に関わる表現 1ーテンス、時間に関わる表現 2ーアスペクト）、教科書（p.99）課題1の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.107-p.119）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.107-p.119）を読み、術語を確認する。教科書（p.111）の課題3をやる。</p>	39, 43
11	<p>文法（4）一視点に関わる表現（受動（受け身）、自動詞・他動詞、授受（やりもらい））、教科書（p.111）課題3の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.120-p.132）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.120-p.132）を読み、術語を確認する。教科書（p.129）の課題3をやる。</p>	39, 43
12	<p>文法（5）一文末表現・単文から複文へ（日本語の“微妙な”ニュアンスの違いについて、「みたいだ」と「かもしれない」、単文から複文へ、日本語学習者は複文の何が難しいのか）、教科書（p.129）課題3の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.133-p.140）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.133-p.140）を読み、術語を確認する。教科書（p.137）の課題3をやる。</p>	39, 43
13	<p>文章・談話（談話のさまざまな種類、結束性のある談話とは、文体とは）、教科書（p.137）課題3の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.141-p.150）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.141-p.150）を読み、術語を確認する。教科書（p.146）の課題3をやる。</p>	14, 39
14	<p>ことばと社会（1）一敬語・待遇表現（日本語教育ではなぜ「です・ます」体から教えるのか、「タメ口」と話し方（スタイル）、スタイルシフト）、教科書（p.146）課題3の確認</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.151-p.160）を読む。</p> <p>（事後学習）ノート、教科書（p.151-p.160）を読み、術語を確認する。教科書（p.158）の課題5をやる。期末テストに備え、第8回目の授業から第14回目の授業内容を復習する。</p>	8, 10, 11, 39, 48

15	<p>ことばと社会（2）－日本語のバリエーション（日本語にも種類がある，ことばの男女差，世代差，ことばの地域差，相手によって話し方を変える），教科書（p.158）課題5の確認，期末テスト</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書（p.161-p.170）を読む。期末テストに備え，第8回目の授業から第14回目の授業内容を復習する。</p> <p>（事後学習）ノート，教科書（p.161-p.170）を読み，術語を確認する。この科目の内容の理解をより深めるため，総復習をする。</p>	8, 10, 11, 39, 48
⑫使用テキスト	太田陽子編著『超基礎 日本語教育のための日本語学』くろしお出版	
⑬参考書・参考資料等	<p>庵功雄ほか著『やさしい日本語のしくみ 改訂版－日本語学の基本』くろしお出版</p> <p>猪塚元・猪塚恵美子著『日本語の音声入門－解説と演習 全面改訂版』バベルプレス</p> <p>河野俊之著『音声教育の実践（日本語教師のためのTIPS77第3巻）』くろしお出版</p> <p>国際交流基金『文字・語彙を教える（国際交流基金日本語教授法シリーズ3）』ひつじ書房</p> <p>濱川祐紀代編著『日本語教師のための実践・漢字指導』くろしお出版</p> <p>秋元美晴ほか著『日本語教育 よく分かる語彙』あるく</p> <p>荒川洋平著『日本語という外国語』講談社現代新書</p> <p>庵功雄著『新しい日本語学入門－ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク</p> <p>庵功雄ほか著『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク</p> <p>新屋映子ほか著『日本語教師がはまりやすい日本語教科書の落とし穴』アルク</p> <p>日本語記述文法研究会（編）『現代日本語文法6』くろしお出版</p> <p>日本語記述文法研究会（編）『現代日本語文法7』くろしお出版</p> <p>小川誉子美・前田直子著『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現－待遇表現 上級』スリーエーネットワーク</p> <p>金水敏著『ヴァーチャル日本語 役割語の謎（もっと知りたい！日本語）』岩波書店</p> <p>庵功雄著『やさしい日本語－多文化共生社会へ』岩波書店</p> <p>井上史雄著『日本語ウォッチング』岩波書店</p>	
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）	－	
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）	－	
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）	中間テスト30％，期末テスト30，課題25％，授業参加度15％	

①課程No.	1
②科目No.	養 3

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語文法Ⅰ	必修	2	11, 38, 39, 43, 48	安田 眞由美	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマ： 日本語教育のために必要な現代日本語の文法知識及び指導上必要となる分析方法の獲得を目指すとともに、日本語学習者の多様な背景や使用場面を想定し、文法知識を運用に活かす視点を養う。 到達目標： 1) 現代日本語の基礎的な文法知識を習得することができる。 2) 現代日本語を分析的に捉える方法を理解し、実践することができる。 3) 現代日本語の文法現象について、英語、韓国語、中国語などと比較し、相違点・共通点を分析することができる。 4) 社会や集団において求められる待遇表現について理解することができる。 5) 日本語学習者が文法項目をどのように理解し、使用するかを予測し、教室内外の文法使用場面を想定して説明・指導の手がかりを考えることができる。				
⑩授業の概要	テキストの内容をまとめたPPTを使用しながら、講義形式で授業を行う。理解の程度を確認するため、随時、質問しながら進めていく。授業8回目に中間テスト、15回目に期末テストを実施する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション 品詞（1） 品詞の種類、名詞と動詞 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ、復習する。教科書を読んで、本日学んだことを確認する。				39, 43
2	品詞（2） 名詞と動詞、動詞の分類、形容詞の分類 【授業外学習】 （事前学習）教科書の該当箇所を読んで、理解する。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ、復習する。簡単な例文で品詞分類を試みて、理解を深めておく。				39, 43
3	品詞（3） 動詞とい形容詞、い形容詞とな形容詞、な形容詞と名詞 【授業外学習】 （事前学習）教科書の該当箇所を読んで、理解する。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ、復習する。簡単な例文で品詞分類を試みて、理解を深めておく。				39, 43
4	品詞（4） 指示詞、副詞、品詞まとめ 【授業外学習】 （事前学習）教科書の該当箇所を読んで、理解する。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ、復習する。簡単な例文で品詞分類を試みて、理解を深めておく。				39, 43
5	格（1） 何が格助詞を決めるのか、格とは、格の種類、ガ格、ヲ格、ニ格、カラ格、ト格 【授業外学習】 （事前学習）教科書の該当箇所を読んで、理解する。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ、復習する。例文を用いて、それぞれの格の意味の違いを確認する。				39, 43

6	<p>格（2） デ格，ヘ格，マデ格，ヨリ格，「場所を」と「場所に」，「場所に」と「場所で」，「人と」と「人と一緒に」</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ，復習する。例文を用いて，それぞれの格の意味の違いを確認する。</p>	39, 43
7	<p>格（3） 格まとめ</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ，復習する。例文を用いて，それぞれの格の意味の違いを確認する。中間テストに備え，品詞と格について復習する。</p>	39, 43
8	<p>活用（1） 学校文法における動詞の活用，動詞の種類の見分け方，動詞「て形」，中間テスト（範囲：品詞，格）</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。中間テストに備え，品詞と格について復習する。</p> <p>（事後学習）学校文法における動詞の活用について復習する。日本語教育における活用形の考え方を確認し，基本的な用語と分類に慣れておく。</p>	39, 43
9	<p>活用（2） 動詞「ない形」「辞書形」「た形」「普通形」「可能形」</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）学んだ活用形の分類や用法を整理し，文型や使用場面との関係を意識して理解を深める。</p>	39, 43
10	<p>活用（3） 動詞「意向形」「命令形」「禁止形」「条件形」「受身形」「使役形」「使役受身形」</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）学んだ活用形の分類や用法を整理し，文型や使用場面との関係を意識して理解を深める。</p>	39, 43
11	<p>活用（4） 活用の機能，な形容詞の活用，い形容詞の活用，「名詞＋だ」の活用，活用まとめ</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）学んだ活用形の分類や用法を整理し，文型や使用場面との関係を意識して理解を深める。</p>	39, 43
12	<p>人称（1） 人称を表すことば，命令文・平叙文・質問文と人称</p> <p>※日本語と英語，韓国語，中国語などの人称制限について比較する</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）授業で学んだ人称制限の特徴を整理し，使用場面を想定して適切な文を考える練習を行う。さらに，自分が学んでいる言語（英語，韓国語，中国語など）と比較して理解を深める。</p>	38, 39, 43
13	<p>人称（2） 内面表現・外面表現と人称，ものの授受を表す表現と人称</p> <p>※日本語と英語，韓国語，中国語などの人称表現及び授受表現について比較する</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）授業で学んだ人称制限の特徴を整理し，使用場面を想定して適切な文を考える練習を行う。さらに，自分が学んでいる言語（英語，韓国語，中国語など）と比較して理解を深める。</p>	38, 39, 43
14	<p>敬語（1） 敬語とは，素材敬語と対者敬語，尊敬語，謙譲語，丁重語</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。</p> <p>（事後学習）敬語の種類と使い分けを整理し，具体的な場面での適切な表現例を考えて確認する。期末テストに備え，活用，人称，敬語（1）の内容を復習しておく。</p>	11, 39, 43, 48
15	<p>敬語（2） 丁寧語，美化語，敬語まとめ，期末テスト（範囲：活用，人称，敬語）</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読んで，理解する。期末テストに備え，活用，人称，敬語（1）の内容を復習しておく。</p> <p>（事後学習）敬語の種類と使い分けを整理し，具体的な場面での適切な表現例を考えて確認する。さらに，この授業で学んだことを全般的に復習する。</p>	11, 39, 43, 48



⑫使用テキスト	野田尚史『はじめての人の日本語文法』くろしお出版 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版
⑬参考書・参考資料等	庵功雄ほか『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 庵功雄『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)	—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)	—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)	中間テスト30％，期末テスト30％，課題25％，授業参加度15％

①課程No.	1
②科目No.	養 4

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語文法Ⅱ	必修	2	38, 39, 43	安田 眞由美	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマ： 日本語教育のために必要な現代日本語の文法知識及び指導上必要となる分析方法の獲得を目指すとともに、日本語学習者の多様な背景や使用場面を想定し、文法知識を運用に活かす視点を養う。 到達目標： 1) 現代日本語の基礎的な文法知識を習得することができる。 2) 現代日本語を分析的に捉える方法を理解し、実践することができる。 3) 現代日本語の文法現象について、英語、韓国語、中国語などと比較し、相違点・共通点を分析することができる。 4) 日本語学習者が文法項目をどのように理解し、使用するかを予測し、教室内外の文法使用場面を想定して説明・指導の手がかりを考えることができる。				
⑩授業の概要	テキストの内容をまとめたPPTを使用しながら、講義形式で授業を行う。理解の程度を確認するため、随時、質問しながら進めていく。授業8回目に中間テスト、15回目に期末テストを実施する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	ボイス（1） 受動文の種類、受動文の動作主のマーカ―、受動文の機能 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。受動文の基本構造と種類を教科書で確認し、例文の動作主に注目して読む。 （事後学習）講義の内容について取ったノートをまとめ、復習しておく。受動文の種類と機能を整理し、使用場面に応じた文を作ってみる。				38, 39, 43
2	ボイス（2） 使役文 【授業外学習】 （事前学習）使役文の基本的な形と意味を教科書で確認し、例文の関係性に注目して教科書を読む。 （事後学習）使役文の構造と意味の違いを整理し、実際の場面を想定して適切な文を作る。				38, 39, 43
3	ボイス（3） 他動詞の受動形と自動詞、自動詞の使役形と他動詞 【授業外学習】 （事前学習）自動詞・他動詞の違いと受動形・使役形との関連を教科書で確認しておく。 （事後学習）受動形と使役形の整理を通して、自他動詞との関係を理解する。				38, 39, 43
4	ボイス（4） ボイスのまとめ 【授業外学習】 （事前学習）これまでの受動文・使役文のポイントを振り返り、重要事項を整理しておく。 （事後学習）受動・使役・自他動詞の関係を再確認し、学習者に説明できるよう整理する。				38, 39, 43
5	テンス（1） 主文のテンス 【授業外学習】 （事前学習）主文におけるテンスの基本的な用法を教材で確認し、ル形・タ形の使い分けに注目する。 （事後学習）主文のテンスの表す時間的意味を整理し、日常的な場面での使用例を考えてみる。				38, 39, 43
6	テンス（2） 従属節のテンス 【授業外学習】 （事前学習）従属節のテンスの基本的な使い方を例文で確認し、主節との関係に注目して読む。 （事後学習）主節と従属節のテンスの一致・非一致のパターンを整理し、日常的な場面での使用例を考えてみる。				38, 39, 43

7	<p>テンス (3) テンスの対立が2つある述語, ル形, タ形の特殊な用法</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) ル形・タ形の特殊な用法に関する例文を読み, どのような意味で使われているかを考える。</p> <p>(事後学習) 2つのテンス対立や特殊な用法の意味を整理して理解し, テンス (1) ～ (3) で扱った表現の意味の違いを学習者に説明できるようにする。中間テストに備え, ボイスとテンスの復習をしておく。</p>	38, 39, 43
8	<p>アスペクト (1) ～ている, ～ているところだ, ～つつある, ～続ける (～続く), 中間テスト (範囲: ボイス, テンス)</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) 継続・進行・反復を表す表現の基本的意味を教科書で確認し, 例文に慣れておく。中間テストに備え, ボイスとテンスの復習をしておく。</p> <p>(事後学習) 各表現の意味の違いと使い分けを整理し, 日常的な場面での使用例を考えてみる。</p>	38, 39, 43
9	<p>アスペクト (2) ～始める, ～だす, ～終わる (～終わる), ～やむ, ～ところだ</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) 動作の開始・終了・直前を表す表現を確認し, 例文に注目して教科書を読む。</p> <p>(事後学習) 動作の段階を表す各表現の用法と違いを整理し, 日常的な場面での使用例を考えてみる。</p>	38, 39, 43
10	<p>アスペクト (3) ～てある, 「～てある」と「～ておく」, ～てみる</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) 「～てある」, 「～ておく」などの用法と意味を事前に整理し, 違いに注目して教科書を読む。</p> <p>(事後学習) 結果状態や意図の違いを理解し, 使用場面を想定して, 日常的な場面での使用例を考えてみる。アスペクト (1) ～ (3) で扱った表現の意味の違いを学習者に説明できるようにする。</p>	38, 39, 43
11	<p>話し手の気持ちを表す表現 (1) 判断 (断定を表す表現, だろう, と思う, かもしれない, はずだ, ちがいない, そうだ①, ようだ, みたいだ, (らしい), そうだ②, (らしい), 区別が問題になる表現)</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) manabaにアップロードされた参考資料 (「～だろう」「かもしれない」などの判断表現) を例文とともに確認し, 用法に慣れておく。</p> <p>(事後学習) 判断に関わる表現の使い分けと意味の違いを整理し, 適切な文が作れるようにする。</p>	38, 39, 43
12	<p>話し手の気持ちを表す表現 (2) 意志・願望 (意向形「～(よ)う」, つもりだ, ことにする (ことになる), ほしい, ～たい)</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) manabaにアップロードされた参考資料 (意志や願望を表す表現) を確認し, どのような場面で使われるか考える。</p> <p>(事後学習) 意志・願望の表現の文脈ごとの使い分けを整理し, 適切な文が作れるようにする。</p>	38, 39, 43
13	<p>話し手の気持ちを表す表現 (3) 命令・依頼・勧誘 (～なさい, 命令形 (しろ) / ～な, ～てください, ～てくださいませんかetc., ～てくれ, ～て, ～ましょう, ～ましょうか, ～ませんか, ～(よ)う, ～(よ)うか, ～ないか)</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) manabaにアップロードされた参考資料 (命令や依頼・勧誘を表す表現) を確認し, 丁寧さの違いに注目して例文を読む。</p> <p>(事後学習) 文末形式と話し手の態度との関係を整理し, 場面に応じた適切な文が作れるようにする。</p>	38, 39, 43
14	<p>話し手の気持ちを表す表現 (4) 義務・勧め・許可・禁止など (～なければいけない, ～なければならないetc., ～ほうがいい, ～てもいい, ～なくてもいい, ～てはいけない)</p> <p>【授業外学習】</p> <p>(事前学習) manabaにアップロードされた参考資料 (義務や許可などを表す表現) を確認し, 例文で使用場面を考える。</p> <p>(事後学習) 意味の強さや丁寧さの違いを意識して各表現を整理し, 適切な文が作れるようにする。期末テストに備え, アスペクト, 話し手の気持ちを表す表現 (1) ～ (4) を復習しておく。</p>	38, 39, 43

15	<p>話し手の気持ちを表す表現（5）終助詞（ね，よ，よね）， 期末テスト（範囲：アスペクト，話し手の気持ちを表す表現（1）～（4））</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）manabaにアップロードされた参考資料（終助詞「ね」，「よ」，「よね」の基本的な意味と働き）を例文とともに確認しておく。期末テストに備え，アスペクト，話し手の気持ちを表す表現（1）～（4）を復習しておく。</p> <p>（事後学習）終助詞のニュアンスや対人関係での効果を整理し，使用場面を意識して適切な文が作れるようにする。話し手の気持ちを表す表現（1）～（5）で扱った助動詞（的表現）や終助詞の意味の違いを学習者に説明できるようにする。</p>	38, 39, 43
⑫使用テキスト	野田尚史『はじめての人の日本語文法』くろしお出版 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版 庵功雄ほか『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク	
⑬参考書・参考資料等	庵功雄『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク	
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）	—	
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）	—	
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）	中間テスト30%，期末テスト30%，課題25%，授業参加度15%	

①課程No.	1
②科目No.	養 5

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
社会言語学	必修	2	1,5,8,9,10,11,12,13, 14,37,38,45,48	安田 眞由美	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマ： 世界の言語から見た日本語の特徴や、現代日本語における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態、言語行動を支える社会的・文化的慣習を学ぶ。あわせて、日本語を使用する多様な文脈や場面を意識し、コミュニケーションの中で意味を協働的に構築する視点を養う。 到達目標： 1) 世界の言語および日本語を系統的・類型的に捉え、日本語の特徴を理解する。 2) 日本語での社会言語的な適切さに関する知識や社会文化的知識について理解することができる。 3) 社会生活における言語活動を達成するための言語的な方略（ストラテジー）や会話を成立させるための仕組み（談話理解の過程や仕組み）について理解することができる。 4) コミュニケーションにおける言語的な行動及び非言語行動の様相について理解することができる。 5) 学習者の社会言語能力及び社会文化能力を向上させる方法について理解することができる。 6) 多様な場面・相手・目的に応じて、日本語学習者が適切に言語を使い分け、相互理解を図るために必要な社会言語的支援や指導のあり方について考えることができる。				
⑩授業の概要	テキストの内容をまとめたPPTを使用しながら、講義形式で授業を行う。理解の程度を確認するため、随時、質問しながら進めていく。授業8回目に中間テスト、15回目に期末テストを実施する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	世界の言語から見た日本語の特徴（1）データから見た日本語、世界の言語から見た日本語の特徴①母音の数、語順 ※日本語を系統的・類型的に捉え、日本語の特徴を理解する。 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。世界の言語における語順や母音数の多様性について調べ、日本語と比較してみる。 （事後学習）日本語の語順や音韻の特徴を整理し、世界の言語類型との比較から理解を深める。				37, 38
2	世界の言語から見た日本語の特徴（2）世界の言語から見た日本語の特徴②語彙、③発音、④文法 ※日本語を系統的・類型的に捉え、日本語の特徴を理解する 【授業外学習】 （事前学習）語彙・発音・文法の観点から、他言語と日本語の違いに注目して、事前にmanabaにアップロードされた資料を読んでおく。 （事後学習）語彙・発音・文法に見られる日本語の特徴を整理し、他言語との比較を通して理解する。				37, 38
3	話し手に根ざした言葉（1）言葉とジェンダー、言葉と世代 【授業外学習】 （事前学習）教科書の該当箇所を読み、性別や世代によって異なる言葉づかいの例を収集し、背景にある要因を考える。 （事後学習）ジェンダーや世代に関する言語差を整理し、日常会話の中での使われ方を踏まえて、ワークシート1を作成する。				8, 10, 48
4	話し手に根ざした言葉（2）言葉と社会階層、役割語と「らしさ」、ワークシート1提出 【授業外学習】 （事前学習）教科書の該当箇所を読み、社会階層や役割語に関する事例を確認し、役割語に込められた「らしさ」について考える。 （事後学習）話し手の立場によって生じる言語使用の違いや、役割語の「らしさ」について整理する。				8, 10, 48

5	<p>聞き手に合った言葉 親疎関係、アコモデーション理論、上下関係、敬語とポライトネス理論 語用論的視点から見た言語表現選択①</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)教科書の該当箇所を読み、会話における上下関係や親疎関係に応じた言葉づかいの事例を探し、整理しておく。 (事後学習)語用論やポライトネス理論の観点から、話し手が表現を調整する仕組みを整理する。</p>	8, 10, 11, 12, 14, 45, 48
6	<p>状況に合った言葉 場と場面、話題、機能、文末文体の切り替え 語用論的視点から見た言語表現選択②</p> <p>伝達方法に合った言葉 話し言葉と書き言葉</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)教科書の該当箇所を読み、話し言葉と書き言葉の違いや、場面に応じた表現の変化について具体例を確認する。 (事後学習)状況や伝達手段に応じた言語形式の使い分けを整理し、実際の会話や文に応用してみる。</p>	8, 10, 14, 45, 48
7	<p>日本語の人称表現 特徴、種類の多さ、聞き手や状況に合わせる、時代とともに変わる、親族名称の体系と変化</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)日本語の人称代名詞の多様性に注目しながら教科書の該当箇所を読み、日本語の人称代名詞や親族名称の使い分けを事例から確認する。 (事後学習)人称表現の選択に影響する要因や変化の背景を整理して実際の使用例を考察し、ワークシート2を作成する。中間テストに備え、第1回目～第7回目の授業の内容を復習しておく。</p>	8, 10, 48
8	<p>地域に根ざした言葉(1) 地図から見える言葉の地域差(方言の区画、方言の東西差、周囲分布)、ワークシート2提出、中間テスト</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)教科書の該当箇所を読み、方言の分布地図を確認し、地域と言語変種の関係に注目する。中間テストに備え、第1回目～第7回目の授業内容を復習しておく。 (事後学習)方言の東西差や周囲分布の特徴を整理し、地域言語の多様性を考察する。</p>	8
9	<p>地域に根ざした言葉(2) 地図から見える言葉の地域差(逆周囲分布、遠隔地分布) 言葉の仕組みから見える地域差①(発音の地域差、アクセントの地域差)</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)教科書の該当箇所を読み、発音やアクセントの地域差について聞き取り可能な事例を探して確認しておく。 (事後学習)逆周囲分布やアクセントの分布の例から、言語変化の広がり方を整理する。</p>	8
10	<p>地域に根ざした言葉(3) 言葉の仕組みから見える地域差②(イントネーションの地域差、アスペクトの地域差)</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)イントネーションやアスペクトの基本的な意味と形式の違いや地域性に注目しながら教科書の該当箇所を読む。 (事後学習)地域によるアスペクトやイントネーションの違いを例と共にまとめ、比較する。</p>	8
11	<p>地域に根ざした言葉(4) 言葉の仕組みから見える地域差③(条件表現の地域差、原因・理由表現の地域差、方言のオノマトペ)</p> <p>【授業外学習】 (事前学習)条件・理由の表現に関する地域差に着目しながら、教科書の該当箇所を読む。 (事後学習)表現の地域差を語用論的観点で比較し、使用場面との対応を整理する。</p>	8

12	<p>地域に根ざした言葉（５）</p> <p>言葉の仕組みから見える地域差④（あいさつの地域差，話の進め方の地域差，コミュニケーション意識の地域差，待遇表現の地域差）</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読み，地域ごとのあいさつやオノマトペの例を調べ，使用状況を予想する。</p> <p>（事後学習）地域差があるあいさつやオノマトペの特徴を比較し，文化的背景と共に整理する。</p>	8, 10, 11, 12, 14, 45, 48
13	<p>社会の変化から見える言葉の地域差</p> <p>標準語化の全国的な傾向，方言と共通語の使い分け，方言に対する意識，新聞記事・投稿に見る方言の社会的価値の変遷</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読み，manabaにアップロードしてある方言と標準語の使い分けに関する記事を読み，変化の背景を考察する。</p> <p>（事後学習）方言の社会的価値や意識の変化を資料から読み取り，自分の意見を整理する。</p>	8
14	<p>言葉と言語</p> <p>言語と方言の境界線，ダイグロシア，バイリンガリズムとマルチリンガリズム，コード・スイッチングとコード・ミキシング</p> <p>言葉と文化</p> <p>言語決定論と言語相対論，言葉によって変わる言語特徴，政治的公正性，言葉によって変わる談話構造</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読み，基本的な用語と事例を確認する。</p> <p>（事後学習）言語の使用が文化や社会に与える影響を整理し，具体例と関連づけて考察する。期末テストに備えて，第8回目～第14回目の授業内容を復習しておく。</p>	1, 8, 14
15	<p>言葉と政治</p> <p>国語と公用語，言語設計と言語政策，日本の近代化と公用語の選定，日本の言語政策，多言語主義と複言語主義</p> <p>期末テスト</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書の該当箇所を読み，日本と他国の言語政策や公用語の制度について事例を調べ，概要を把握する。期末テストに備えて，第8回目～第14回目の授業内容を復習しておく。</p> <p>（事後学習）日本の言語政策の特徴を整理し，多言語主義との関連について自分の考えをまとめる。</p>	5, 8, 9, 13
⑫使用テキスト		『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』石黒圭 光文社新書 『方言学入門』木部暢子ほか 三省堂
⑬参考書・参考資料等		『日本語 新版 上』金田一春彦 岩波新書 新赤版 2，『日本語 新版 下』金田一春彦 岩波新書 新赤版 3，『世界の言語と日本語 改訂版一言語類型論から見た日本語』角田 太作 くろしお出版
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		中間テスト30%，期末テスト30%，ワークシート25%，授業参加度15%

①課程No.	1
②科目No.	養 6

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語の音韻・音声	必修	2	38, 40, 42	中原 郷子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	・教育実践に活用するために、日本語をほかの言語と比較し、音韻的な相違点・共通点を分析する方法を理解する。 ・日本語学習者の発音を聞いて、母語の特性に合った適切な指導ができる。 ・日本語の発音指導に必要なとなる音韻・音声に関する体系的な知識を理解する。 ・日本語の形態論と語構成を理解し、語彙指導に必要なとなる知識を理解する。 ・音声記号を使って日本語の音声を記述できる。 ・子音の調音点と調音法について理解し、標準的な日本語の発音ができる。 ・標準的な日本語の音、アクセント、イントネーションを理解し、正しくないものを訂正できる。				
⑩授業の概要	日本語教員に必要な音声学の基礎的知識を身につけ、発音の指導法などを学ぶ。 学習内容の定着を図るために、単元ごとに小テストを実施する。 学期末に期末試験を実施する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション， 1. 五十音図とその拡大表 【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。 (事後学習) 教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				40
2	2. 話し言葉の語形， 3. 母語の干渉，誤用分析 【授業外学習】 (事前学習) 教科書pp.18-30を読んで、疑問点をまとめておく。 (事後学習) 教科書の基本問題・応用問題を解くLMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				38, 40, 42
3	4. アクセントの感覚，表記， 5. アクセントの式と型， 6. イントネーション 【授業外学習】 (事前学習) 教科書pp.36-59を読んで、疑問点をまとめておく。 (事後学習) 教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				40
4	日本語の標準音の調音点，調音法 【授業外学習】 (事前学習) 配布資料を読んで、疑問点をまとめておく。 (事後学習) LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				40
5	子音の調音点，調音法①鼻音，破裂音，摩擦音 【授業外学習】 (事前学習) 配布資料を読んで、疑問点をまとめておく。 (事後学習) LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				40
6	子音の調音点，調音法②破擦音，弾き音，震え音，側面音，接近音 【授業外学習】 (事前学習) 配布資料を読んで、疑問点をまとめておく。 (事後学習) LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				40
7	7. 子音の分類（その1）， 8. 子音の分類（その2） 五十音の配列の理由，清濁と有声音無声音の対応 【授業外学習】 (事前学習) 教科書pp.68-71を読んで、疑問点をまとめておく。 (事後学習) 教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。				40



8	五十音図とその発音①カ行～タ行（調音点、調音法、異音） 【授業外学習】 （事前学習）配布資料を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	40
9	五十音図とその発音②ナ行～マ行（調音点、調音法、異音） 【授業外学習】 （事前学習）配布資料を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	40
10	五十音図とその発音③ヤ行～（調音点、調音法、異音） 【授業外学習】 （事前学習）配布資料を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	40
11	9. 唇音退化、ハ行転呼、10. 四つ仮名 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.85-98を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	40
12	11. 拗音、12. 環境による音声変化 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.108-111を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	40
13	13. 母音の分類、14. プロミネンスとポーズ、15. 用言、複合語のアクセント 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.130-151を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	40
14	16. 音節構造、17. 音韻論 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.159-173を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）教科書の基本問題・応用問題を解く。LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。期末試験に向けて復習をする。	40
15	音声教育の現状、学習者の発音の誤りの傾向、拍・子音・母音・アクセント・イントネーションの指導 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.192-216を読んで、疑問点をまとめておく。 （事後学習）LMSに出題される復習問題に回答し、提出する。	38, 40
⑫使用テキスト		松崎寛・河野俊之（2018）『日本語教育 よくわかる音声』アルク
⑬参考書・参考資料等		猪塚恵美子・猪塚元（2003）『日本語教師トレーニングマニュアル① 日本語の音声入門 解説と演習＜全面改訂版＞』バベルプレス 河野俊之（2014）『日本語教師のためのTIPS77③ 音声教育の実践』くろしお出版 池田悠子（2024）『日本語教師を目指す人のためのスモールステップで学ぶ音声』スリーエーネットワーク
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）		—
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）		—
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）		期末試験40%，小テスト40%，宿題20%

①課程No.	1
②科目No.	養 7

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
第二言語習得論	必修	2	1, 2, 3, 7, 10, 13, 15, 16, 17, 19, 22, 24, 26, 29, 31, 46, 47, 49	中原 郷子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	・日本語学習支援を効果的に行うために、第二言語習得に関する基礎的な理論、学習過程で起こる現象や問題について理解し、その解決のために必要な知識を獲得する。 ・学習者の誤用の分析及び、効果的なフィードバックの方法について理解する。 ・学習に影響を与える心理的要因や、学習者の心的側面における対応に関して理解し、適切な学習支援を行うための知識を身につける。 ・自分の第二言語学習を振り返り、第二言語習得理論と関連付けられるようになる。				
⑩授業の概要	第二言語習得論を概観し、日本語教育に必要な知識や理論を学ぶ。 授業は講義形式のみでなく、受講者同士で意見交換をしたり、考えたりする活動も行う。 毎週、学習内容の定着を図るために小テストを実施し、学期末には期末試験も実施する。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション、第二言語習得研究とは：用語、SLA研究の基本的な概念など 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。 （事後学習）課題「第二言語習得研究とは」をまとめる。				16
2	二つの言語習得観と言語転移の捉え方：L1獲得とL2習得、生得主義と創発主義、生得主義と普遍文法、偶発主義と用法基盤モデル、言語転移の変遷 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.23-37を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「二つの言語習得観と言語転移の捉え方」をまとめる。				16
3	エラーの捉え方の変遷：誤用分析、中間言語研究 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.38-54を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「エラーの捉え方の変遷」をまとめる。				16, 29
4	SLAの認知プロセス：インプット、アウトプット、インターアクション 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.55-64を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLAの認知プロセス」をまとめる。				16, 46, 47
5	SLAに与える個人差の影響：言語適性、動機づけ、学習ストラテジー、WM 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.66-77を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLAに与える個人差の影響」をまとめる。				16, 17
6	SLAの環境と特徴：自然環境、教室環境、文法指導の効果、教師の役割、教室における指導の役割 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.78-91を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLAの環境と特徴」をまとめる。				15, 16, 22
7	社会とつながるSLA研究：日本社会の多言語・多文化化と日本語教育、在留外国人、地域日本語教育 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.92-104を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「社会とつながるSLA研究」をまとめる。				1, 2, 3, 7, 13, 49
8	CLD児の言語習得：日本語指導が必要な児童生徒、CLD児、臨界期、BICS、CALP、バイリンガリズムと認知理論 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.105-115を読んで、ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「CLD児の言語習得」をまとめる。				13, 15, 16, 19

9	CLD児への教育と支援：バイリンガル教育，JSLカリキュラム，JSL対話型アセスメントDLA，特別の教育課程 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.116-128を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「CLD児への教育と支援」をまとめる。	15, 17, 31
10	SLA研究に基づく日本語指導①：コミュニケーション能力，コミュニケーションストラテジー，外国語指導法の変遷， フォーカス・オン・フォーム，リキャスト，効果的な訂正フィードバック 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.129-143を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLA研究に基づく日本語指導①」をまとめる。	10, 15, 16, 24, 29, 46, 47
11	SLA研究に基づく日本語指導②：指導法（TBLT, CLIL） 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.144-151を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLA研究に基づく日本語指導②」をまとめる。	17, 24
12	SLAと評価：自己評価，ピア評価，妥当性，信頼性，真正性，CEFR 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.152-163を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLAと評価」をまとめる。	26
13	第二言語不安：定義，L2学習に与える影響，要因，対処法 【授業外学習】 （事前学習）「第二言語不安」についての配布資料を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「第二言語不安」をまとめる。	16, 19
14	SLAとアイデンティティ：アイデンティティとSLA研究の概観 【授業外学習】 （事前学習）「SLAとアイデンティティ」についての配布資料を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLAとアイデンティティ」をまとめる。期末試験に向けて復習をする。	16, 19
15	SLA研究の今，そしてこれから：まとめ 【授業外学習】 （事前学習）教科書pp.149-149を読んで，ワークシートに回答する。 （事後学習）課題「SLA研究の今，そしてこれから」をまとめる。	16, 19
⑫使用テキスト	奥野由紀子ほか（2021）『超基礎・第二言語習得研究』くろしお出版	
⑬参考書・参考資料等	大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得入門』くろしお出版 小林明子ほか（2018）『日本語教育に役立つ心理学入門』くろしお出版 小柳かおる（2020）『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』くろしお出版 迫田久美子（2020）『改訂版 日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク 福田倫子ほか（2022）『第二言語学習の心理 個人差研究からのアプローチ』くろしお出版	
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）	—	
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）	—	
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）	期末試験40%，小テスト40%，宿題20%	

①課程No.	1
②科目No.	養 8

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
異文化間教育	必修	2	12, 13, 18, 20, 32, 33, 34, 49, 50	中原郷子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	・文化の多様性を尊重し、異なる文化背景をもつ学習者同士・学習者と教師・学習者と周囲の人々との円滑なコミュニケーションを実現するために、多様なものの見方や考え方、コミュニケーション方略について理解する。 ・日本語教育人材に求められる基本的な資質・能力の一つである「多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化多様性を理解し尊重する態度」を身につける。 ・学習者の日本語によるコミュニケーション能力を育成するために、コミュニケーション能力に関する知識を身につけるとともに、日本語教育を実践する上で必要となるコミュニケーション能力を向上させる。				
⑩授業の概要	・学期の前半は、異文化間教育、異文化コミュニケーション、多文化共生について学ぶ。 ・学期の後半では、日本語教師が日本語教育の現場で出会うさまざまな事例について深く考えることを通して、教師の成長に必要な「内省・省察」することを身につける。 ・他の受講生とのグループディスカッションを通して、多様なものの見方、考え方に触れ、思考の幅を広げる。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	オリエンテーション、日本語教師に求められる資質・能力とは 【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読んで、この科目の目的、各回の内容について理解する。 (事後学習) 課題「日本語教師に求められる資質・能力とは」についてまとめる。				20
2	異文化間ソーシャルトレーニング：同化、多文化主義について考える 【授業外学習】 (事前学習) 「異文化間ソーシャルトレーニング」に関するワークシートに回答する。 (事後学習) 課題「異文化間ソーシャルトレーニング」についてまとめる。				12, 13, 18, 32, 33, 49, 50
3	アサーション・トレーニング（DESC法、アクティブ・リスニング、"I"メッセージの使用）について学ぶ 【授業外学習】 (事前学習) 「アサーション・トレーニング」に関するワークシートに回答する。 (事後学習) 課題「アサーション・トレーニング」についてまとめる。				12, 32, 33, 34, 49, 50
4	マイクロ・アグレッション、偏見について考える 【授業外学習】 (事前学習) 「マイクロ・アグレッション」に関するワークシートに回答する。 (事後学習) 課題「マイクロ・アグレッション、偏見」についてまとめる。				12, 32, 33, 34, 49, 50
5	マジョリティとマイノリティ（社会における言語使用者数から見た多数派と少数派）について考える 【授業外学習】 (事前学習) 「マジョリティとマイノリティ」に関するワークシートに回答する。 (事後学習) 課題「マジョリティとマイノリティ」についてまとめる。				13, 32, 33, 49, 50
6	ステレオタイプ、バイアスについて考え、異文化コミュニケーション・スキルを学ぶ 【授業外学習】 (事前学習) 「ステレオタイプ」に関するワークシートに回答する。 (事後学習) 課題「ステレオタイプ、異文化コミュニケーション・スキル」についてまとめる。				32, 33, 49, 50
7	国境を越える子どもの言語習得、異文化接触、異文化適応 【授業外学習】 (事前学習) 「国境を越える子どもの言語習得」に関するワークシートに回答する。 (事後学習) 課題「国境を越える子どもの言語習得、異文化接触、異文化適応」についてまとめる。				13, 18

8	<p>ケース02「教育実習でしごかれた！？」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.18を読んで， p.19に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース02 教育実習でしごかれた！？」についてまとめる。</p>	20, 49
9	<p>ケース05「まずは非常勤で」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.36を読んで， p.37に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース05まずは非常勤で」についてまとめる。</p>	20, 49
10	<p>ケース06「将来のこと」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.42を読んで， p.43に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース06将来のこと」についてまとめる。</p>	20, 49
11	<p>ケース11「社会事象を扱った授業」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.74を読んで， p.75に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース11社会事象を扱った授業」についてまとめる。</p>	20, 49
12	<p>ケース20「日本の女性は媚びている？」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.128を読んで， p.129に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース20日本の女性は媚びている？」についてまとめる。</p>	20, 32, 49
13	<p>ケース24「学生との距離感」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.152を読んで， p.153に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース24学生との距離感」についてまとめる。</p>	20, 49
14	<p>ケース28「職員室での談笑」について考える</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）教科書p.178を読んで， p.179に回答する。</p> <p>（事後学習）課題「ケース28職員室での談笑」についてまとめる。</p>	20, 49
15	<p>日本語教師に求められる資質・能力：養成段階・初任段階・日本語学習支援者を比較する</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）「日本語教育人材の養成・研修のあり方について（報告）改訂版」の「日本語教育人材に求められる資質・能力について」を読んで， ワークシートに回答する。</p> <p>（事後学習）課題「日本語教師に求められる資質・能力」を提出する。</p>	20
⑫使用テキスト		鴈野恵・香月裕介・佐々木良造（2024）『ケースから学ぶ知っておきたい日本語教師の心がまえ』アルク
⑬参考書・参考資料等		有田佳代子・志賀玲子・渋谷実希（編著）（2018）『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社 徳井厚子（2020）『改訂版 多文化共生のコミュニケーション 日本語教育の現場から』アルク
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）		—
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）		—
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）		宿題40%（予習20%，振り返り20%），グループディスカッションピア評価20%，期末レポート40%

①課程No.	1
②科目No.	養 9

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名		④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教授法Ⅰ		必修	2	13,19,20,21,22,23,25,27,29,30,31,34,35,36,43,44,46,47,49,50	川崎加奈子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標		・多様な学習者の存在を常に意識し、多様な日本語使用が認められる日本語教育のあり方を模索する態度を持つ ・学習者の状況に応じたコースデザインを策定し、そのデザインに応じた授業を実施するための知識と技能を持つ ・上2点を踏まえ、共生社会において日本語教育が果たす役割について考え続けることができる				
⑩授業の概要		日本語を母語としない人を対象とした日本語教育を実施するために、学習者の状況を知ることにより、目的別の学習、コースの策定、教材分析・選定・作成、模擬授業の授業計画・実施まで行う。前半は学生自身による内省と発見、それに伴う意見交換を重視し、後半は授業内で行われた模擬授業について積極的に評価及び批評をピアで行う。授業のあらゆる場面で、一方的な講義ではなく、学生自身による考察と受身ではない積極的な参加姿勢を求める。				
⑪授業計画						
授業回等	各回の授業内容					各回に含む必須の教育内容番号
1	一篇の多文化・多言語・複言語に関するエッセイを読み、日本語教育は何を目指すべきかについて意見交換を行う (事前学習) シラバスを読んで授業の概要と到達目標を理解する (事後学習) 授業での議論を内省する					13,50
2	自宅で読んだエッセイを共有し、それを踏まえた日本語教師の役割及び資質・能力について意見交換を行う (事前学習) 第一回の授業内で読まなかった多文化・多言語・複言語に関するエッセイを選び、授業で共有するための準備をする (事後学習) 授業内の発表を総合的に内省し、目指すべき日本語教師像をイメージする					13,20,49,50
3	『日本語教育の参照枠』（以下、『参照枠』）の構成と要素について意見交換を行い、多様な学習者の存在を意識し、それぞれの目的や対象によりさまざまな日本語教育があることを知る (事前学習) 『参照枠』の概要を読み、その全体像をつかむ (事後学習) 『参照枠』を読み返し、具体的な教育現場を想定する					31
4	コースデザインの流れとその必要性及びシラバスデザインについて考え、意見交換を行う (事前学習) 想定した教育現場で授業を策定するために必要な要素を考える (事後学習) コースデザインの策定に必要な要素をまとめる					23
5	教材分析の考え方について知り、意見交換を行う (事前学習) 複数の日本語教材を閲覧する (事後学習) 教材分析時に必要な項目を確認する					25
6	一人一冊選んだ教材を共有し、多様な教材があることを認識する (事前学習) 教材を選び、分析シートに書き出す (事後学習) 授業前の分析シートを完成し、クラスのLMSにアップロードする					25
7	教材教具の例を共有し、教材に合った配布資料や教具について意見交換を行う (事前学習) 自らが分析した教材に必要な教具等をイメージする (事後学習) 教材から一つの到達目標を絞り、日本語の授業で使用する教具を作成する					27



8	<p>事前に作成した教材について共有し、意見交換を行う</p> <p>復習テストを行う</p> <p>(事前学習) これまでの学習について理解を深めるために復習する</p> <p>(事後学習) 教材教具についてのピア批評を振り返り、改善策を考える</p>	27,36
9	<p>『参照枠』の活動Can-do一覧から到達目標を設定し、コミュニケーション教育のための授業を計画する</p> <p>(事前学習) 具体的に想定した教育現場と『参照枠』活動Can-do一覧とがどのように重なるか考える</p> <p>(事後学習) 計画された授業の到達目標について学生間で意見交換を行う</p>	31,34
10	<p>ICTや情報資源を用いた授業の活動例と、授業における著作権の扱いについて説明する</p> <p>(事前学習) オンライン上の教材を概観する</p> <p>(事後学習) 他者作成の教材や自作の教材が著作権に違反していないか確認する</p>	35,36
11	<p>教案を作成するポイントを知り、意見交換を行う</p> <p>(事後学習) 第9回で計画した授業を教案にまとめる</p>	34
12	<p>2名の受講生による模擬授業を実施する。必要に応じてこれまでに学習した日本語の文法・意味の体系を振り返り、学習者の受容能力と言語運用能力を向上させる授業になっていたかについて意見交換する。</p> <p>(事前学習) 教案と教材教具を完成させ、模擬授業のシミュレーションをする</p> <p>(事後学習) 実施あるいは参加した模擬授業について振り返る</p>	19,21,22, 29,30,31, 34,36,43, 44,46,47
13	<p>2名の受講生による模擬授業を実施する。必要に応じてこれまでに学習した日本語の文法・意味の体系を振り返り、学習者の受容能力と言語運用能力を向上させる授業になっていたかについて意見交換する。</p> <p>(事前学習) 教案と教材教具を完成させ、模擬授業のシミュレーションをする</p> <p>(事後学習) 実施あるいは参加した模擬授業について振り返る</p>	19,21,22, 29,30,31, 34,36,43, 44,46,47
14	<p>2名の受講生による模擬授業を実施する。必要に応じてこれまでに学習した日本語の文法・意味の体系を振り返り、学習者の受容能力と言語運用能力を向上させる授業になっていたかについて意見交換する。</p> <p>(事前学習) 教案と教材教具を完成させ、模擬授業のシミュレーションをする</p> <p>(事後学習) 実施あるいは参加した模擬授業について振り返る</p>	19,21,22, 29,30,31, 34,36,43, 44,46,47
15	<p>2名の受講生による模擬授業を実施する。必要に応じてこれまでに学習した日本語の文法・意味の体系を振り返り、学習者の受容能力と言語運用能力を向上させる授業になっていたかについて意見交換する。</p> <p>(事前学習) 教案と教材教具を完成させ、模擬授業のシミュレーションをする</p> <p>(事後学習) 実施あるいは参加した模擬授業について振り返る</p>	19,21,22, 29,30,31, 34,36,43, 44,46,47
⑫使用テキスト	<p>森篤嗣編著（2025）『超基礎日本語教育（改訂版）』くろしお出版</p> <p>小林ミナ（2019）『日本語教育よくわかる教授法』アルク</p>	
⑬参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齋藤ひろみ編著（2011）『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』凡人社</li> <li>・高見沢孟（2016）『新・はじめての日本語教育（増補改訂版）』アスク出版</li> <li>・川口義一＆横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)(下)』ひつじ書房</li> <li>・坂本正他監修（2017）『日本語教育への道しるべ1 ことばのまなび手を知る』 『（同上）3 ことばの教え方を知る』凡人社</li> <li>・深澤のぞみ他（2022）『日本語を教えるための教材研究入門』アルク</li> <li>・国際交流基金（2010）『日本語教授法シリーズ4 文法を教える』 『（同上）9 初級を教える』『（同左）14教材開発』</li> <li>・坂本正・横溝紳一郎（2016）『日本語教師の7つ道具シリーズプラス 教案の作り方編』アルク</li> <li>・久保田美子編著（2024）『スモールステップで学ぶ教授法』スリーエーネットワーク</li> </ul>	
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)	—	

⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)	—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)	中間テスト（情報を正確に把握しているか／情報に対して自分なりの見解が示せるか）：30％ 期末レポート（模擬授業を自分の言葉で振り返り、改善に繋がる省察ができているか）：30％ 模擬授業（学習者に配慮した教授姿勢があるか）：10％ 授業時態度（建設的な意見交換ができているか）：20％ 参加度（積極的に授業に参加できたか）：10％



①課程No.	1
①科目No.	養 10

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教授法Ⅱ	必修	2	3,4,6,7,13,20,21,23, 24,26,31,49,50	川崎加奈子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	これまでと今現在の言語教育及び日本語教育の情勢を詳しく知る。併せて、今日の社会情勢について考察し、多様な日本語教育が求められるようになった背景を認識しながら、多文化共生社会の中で学習者を社会的な存在として認める姿勢を身につける。				
⑩授業の概要	日本語教育を実施するために必要な基礎的な理論について、社会情勢や自らの外国語学習を振り返りながら考察する。指導技術ではなく教育観を涵養する授業であり、学生自身による考察と受身ではない積極的な参加姿勢を求める。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	国や地域社会の多文化共生施策をネット上で調査し、意見交換を行う （事前学習）シラバスを読んで授業の概要と到達目標を理解する （事後学習）授業内の調査を深め、考えたことをLMSに共有する				3,13
2	世界の日本語教育事情に関して発表し、その内容について意見交換を行う （自前学習）国際交流基金調査による世界の日本語教育事情を調べ、観点を絞って発表を準備する （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				7
3	国内の日本語教育事情に関して発表し、意見交換を行う （自前学習）文科省調査による国内の日本語教育事情を調べ、観点を絞って発表を準備する （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				7
4	外国語教授法の歴史を学びその特徴を理解する①（コミュニケーションアプローチまで） （事前学習）教科書の該当箇所を読んでおく （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				24
5	外国語教授法の歴史を学び、その特徴を理解する②（コミュニケーションアプローチ以降） （事前学習）教科書の該当箇所を読んでおく （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことを考えたことをLMSに共有する				24
6	日本語教育の歴史について理解し、それぞれの施策や方法論について意見交換を行う （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				4
7	評価法を分類し、その特性を理解する （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				26
8	日本語能力を評価する試験について知りそれぞれの特性を理解しながら、その是非について意見交換を行う （事前学習）日本語能力を評価する試験を調べておく （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				6
9	日本語能力を評価する試験を作成し、その妥当性について意見交換を行う （事前学習）目的別の試験を作成する （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、作成した試験を修正する				6
10	新聞記事や書籍情報により多様化する日本語教育の様相を理解し、登録日本語教員制度について考える （事後学習）授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する				13,20
11	これまでの授業のまとめ及び復習テスト （事前学習）第1～10回の内容を振り返り、理解を深める （事後学習）テストの問いと解答について振り返る				3,4,6,7,13, 20,24,26

12	『日本語教育の参照枠』の理念とCEFRの理念を比較し、その共通点と相違点について意見交換を行う (事前学習) CEFRについて調べる (事後学習) 授業内で共有された情報を見直し、考えたことをLMSに共有する	21,31
13	『日本語教育の参照枠』の活動Can-do一覧と、身近な日本語学習者（あるいは日本語学習希望者）や自らの言語力を具体的に比較検証し、意見交換を行う (事前学習) 活動Can-doを概観し、どこにどのように記述されているのかを頭に入れる (事後学習) 授業内の比較検証を踏まえ、日本語の授業（あるいは活動）を計画する	21,23,31
14	計画した日本語の授業（あるいは活動）を共有し、意見交換を行う (事前学習) 作成した授業（活動）計画を共有する準備をする (事後学習) 授業内で共有された情報を見直し、授業（活動）計画を修正する	21,23,31
15	多文化・多言語主義・共生社会の実現に向けて日本語教育及び日本語教育人材が果たす役割について意見交換する (事後学習) 一学期の授業を振り返り、自らの考察と共に期末レポートにまとめる	49,50
⑫使用テキスト		森篤嗣編著（2025）『超基礎日本語教育（改訂版）』くろしお出版 小林ミナ（2019）『日本語教育よくわかる教授法』アルク
⑬参考書・参考資料等		・齋藤ひろみ編著（2011）『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』凡人社 ・高見沢孟（2016）『新・はじめての日本語教育（増補改訂版）』アスク出版 ・川口義一 & 横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)(下)』ひつじ書房 ・鎌田修他編著（1996）『日本語教授法ワークショップ』凡人社 ・久保田美子編著（2024）『スモールステップで学ぶ教授法』スリーエーネットワーク ・国際交流基金『（最新年度版）海外日本語教育機関調査』 ・文化庁（最新年度）「国内の日本語教育の概要」 ・文化庁 日本語教育の参照枠 報告
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		中間テスト（情報を正確に把握しているか／情報に対して自分なりの見解が示せるか）：30％ 期末レポート（模擬授業を自分の言葉で振り返り、改善に繋がる省察ができていないか）：30％ 授業時態度（建設的な意見交換ができていないか）：20％ 参加度（積極的に授業に参加できたか）：20％

①課程No.	1
①科目No.	養 11

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
言語学Ⅰ	選択必修	2	5, 8, 9, 11, 16, 37, 38, 40	藤内則光	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	言語学の基本的な考え方を理解し、その多様性の背後にあることばの普遍的特性を探ることができる 各単元でのテーマと到達目標は 初講と最終講を除くすべて：教育実践に活用するために、日本語を他の言語と比較し、相違点・共通点を分析する方法を理解している。 第13講と第14講を除くすべて：世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を理解している。 第4講と第5講：日本語学習支援を効果的に行うために、言語の習得過程や学習者要因について理解している。 第11講と第12講：日本語の発音指導に必要となる音韻・音声に関する知識を理解している。 第13講と第14講：同一言語内における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態や、言語行動を支える社会的・文化的慣習について理解している。 第13講：様々な社会的状況において社会や集団において求められる待遇表現について理解している。 第14講：日本や他国の言語政策について理解している。				
⑩授業の概要	日本語を含む様々な言語に触れ、ことばの多様性を知る。言語学の基本的な考え方を理解し、多様性の背後にあることばの普遍的特性を探る。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	授業のオリエンテーション・評価方法の説明 言葉の学習の言語の研究の違い 【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、言語学について何を期末レポートの題材にしたいのか考えておく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				37
2	「言語」とは何か ラングとパロール、シニフィエとシニフィアン 【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				37, 38
3	「言語」とは何か 連辞と連合、共時態と通時態 【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				37, 38
4	「言語」とは何か 言語能力と普遍文法 【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				16, 38

5	<p>「言語」とは何か 媒介変項と言語獲得機構</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	16, 38
6	<p>記号論 記号の恣意性と有契性</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38
7	<p>記号論 コードとコンテキスト、フレームとスキーマ</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38
8	<p>言語の変化と歴史 語族、類推変化、語彙の借用</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38
9	<p>言語類型論 言葉の違いと近さ 人工言語</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38
10	<p>言語類型論と言語相対論 サピア・ウォーフの仮説</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38
11	<p>音声学 言語音の違い、許容発音と言語変種</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38, 40
12	<p>音韻論 機能の記述と抽象化、エティックとイーミック</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38, 40
13	<p>社会言語学 階級的な言語変種、地域差と言語変種、性差と言語変種</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	8, 11, 38

14	社会言語学 tとvの交代、くだけた表現、言語と国家 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく （事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する	5, 8, 9, 38
15	授業の総括 【授業外学習】 （事前学習）これまでの講義ノートとスタディレポートを振り返り、期末レポートの作成に必要な知識をまとめる （事後学習）期末レポートを作成する	37
⑫使用テキスト		必要に応じてプリントを配布
⑬参考書・参考資料等		一般言語学講義 ソシュール著 小林英夫 訳 岩波書店 新訳 ソシュール 一般言語学講義 ソシュール著 町田健 訳 研究社
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		講義ノートの提出 スタディレポートの評価の前提 スタディレポートの提出 1講につき4点 15講分で60点 研究レポートの提出 40点

①課程No.	1
②科目No.	養 12

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
言語学Ⅱ	選択必修	2	8, 16, 37, 38, 39, 40, 42, 44, 45	藤内則光	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	言語学の基本的な考え方を理解し、その多様性の背後にあることばの普遍的特性を探ることができる 各単元でのテーマと到達目標は 最終講を除くすべて：教育実践に活用するために、日本語を他の言語と比較し、相違点・共通点を分析する方法を理解している。 初講：日本語の発音指導に必要となる音韻・音声に関する知識を理解している。 初講から第3講、第10講から最終講：世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を理解している。 第2講と第3講：日本語の形態論と語構成を理解し、語彙指導に必要となる知識を理解している。 第6講と第7講：日本語を分析的に捉える方法を理解している。 第6講と第7講：日本語学習支援を効果的に行うために、言語の習得過程や学習者要因について理解している。 第10講から第12講：日本語教育のための意味体系に関する知識を体系的に学び、指導上必要となる分析方法について理解している。 第13講と第14講：日本語教育のための語用論的規範について学び、効果的な教育実践方法を理解している。 第14講：同一言語内における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態や、言語行動を支える社会的・文化的慣習について理解している。				
⑩授業の概要	日本語を含む様々な言語に触れ、ことばの多様性を知る。言語学の基本的な考え方を理解し、多様性の背後にあることばの普遍的特性を探る。 普遍文法は英語と日本語に限った言語知識ではないが、英語と日本語の対照授業を主に行う。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	授業のオリエンテーション・評価方法の説明 音声学 音素と異音 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読み、言語学について何を期末レポートの題材にしたいのか考えておくと共に、音素と異音について参考資料を読み込んでおく （事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				37, 38, 40
2	形態論 形態素と異形態 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく （事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				37, 38, 42
3	形態論 複合と派生 【授業外学習】 （事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく （事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する				37, 38, 42

4	<p>統語論</p> <p>統語論と文法学習の違い、三階位説</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	38
5	<p>統語論</p> <p>構造主義言語学のアプローチ</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	38
6	<p>統語論</p> <p>変形生成文法のアプローチ 生成</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	16, 38, 39
7	<p>統語論</p> <p>変形生成文法のアプローチ 変形</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	16, 38, 39
8	<p>統語論</p> <p>統語的機能</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	38
9	<p>統語論</p> <p>概念構造</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	38
10	<p>意味論</p> <p>外延的意味と内包的意味</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38, 44
11	<p>意味論</p> <p>連辞的意味と連合的意味</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38, 44
12	<p>意味論</p> <p>成分分析と弁別的素性</p> <p>【授業外学習】</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく</p> <p>（事後学習）講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38, 44

13	<p>語用論 直示と照応</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	37, 38, 45
14	<p>語用論 発語行為論 絵文字・顔文字</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) シラバスをよく読み、講義に関連する参考資料を読みこんでおく (事後学習) 講義ノートの内容と講義中に得た専門知識について調べ、スタディレポートを作成・提出する</p>	8, 37, 38, 45
15	<p>授業の総括</p> <p>【授業外学習】 (事前学習) これまでの講義ノートとスタディレポートを振り返り、期末レポートの作成に必要な知識をまとめる (事後学習) 期末レポートを作成する</p>	37
⑫使用テキスト		必要に応じてプリントを配布
⑬参考書・参考資料等		<p>一般言語学講義 ソシュール著 小林英夫 訳 岩波書店 新訳 ソシュール 一般言語学講義 ソシュール著 町田健 訳 研究社</p>
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		<p>講義ノートの提出 スタディレポートの評価の前提 スタディレポートの提出 1講につき4点 15講分で60点 研究レポートの提出 40点</p>



①課程No.	1
②科目No.	養 13

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
文化人類学Ⅰ	選択必修	2	1,32	小鳥居伸介	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	世界の諸民族の文化に関する比較研究である文化人類学の基本的諸問題について学び理解する。 1. 文化人類学の基本的な考え方や方法について、適切に説明できる。アジア諸国・地域の文化や社会の特質について、適切に説明できる。 2. 文化人類学について修得した知識を生かしながら、アジア諸社会と諸文化について自律的に考察することができる。 3. 文化人類学の考え方や視点を生かして、異文化に対して積極的かつ自律的に学ぶ姿勢を身につけることができる。				
⑩授業の概要	文化人類学は「フィールドワーク」（現地調査）に基づく、世界の諸民族の文化に関する比較研究である。この授業では主に日本と東アジア・東南アジア諸国の事例によって、文化人類学の基本的な研究テーマ（家族・ジェンダー・子供、呪術・宗教と病い等）のいくつかについて学び、異文化理解のための基本的な知識と関心・態度を身につける。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	はじめに：文化人類学とは何か （事前学習）シラバスをよく読み、文化人類学とは何か、何を期末レポートの題材にしたいのかについて考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
2	家族と親族（１）：東アジア諸社会と日本の比較 （事前学習）シラバスをよく読み、東アジア諸社会における家族と親族の特徴について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
3	家族と親族（２）：東アジアの父系出自集団 （事前学習）シラバスをよく読み、東アジアにおける父系出自集団の特徴について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
4	家族と親族（３）：家族と親族における「伝統」とは何か （事前学習）シラバスをよく読み、東アジア諸社会における家族と親族の「伝統」とは何かについて調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
5	ジェンダーとセクシュアリティ（１）：文化人類学とジェンダー研究 （事前学習）シラバスをよく読み、文化人類学におけるジェンダー研究について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
6	ジェンダーとセクシュアリティ（２）：韓国の事例 （事前学習）シラバスをよく読み、韓国におけるジェンダーとセクシュアリティについて調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
7	ジェンダーとセクシュアリティ（３）：日本と韓国の比較 （事前学習）シラバスをよく読み、日本と韓国におけるジェンダーとセクシュアリティの比較について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
8	東アジアにおける産育文化（１）：多子多福から少子化へ （事前学習）シラバスをよく読み、東アジアにおける産育文化の変容について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32

9	東アジアにおける産育文化（２）：多男富貴の持続と変容 （事前学習）シラバスをよく読み、東アジアにおける多男富貴の持続と変容について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
10	東アジアにおける産育文化（３）：現代日本の女児選好と性別選好の文化比較 （事前学習）シラバスをよく読み、現代日本における女児選好と性別選好の文化比較について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
11	「呪い」は効くのか？（１）：呪術研究に潜む暗黙の枠組み （事前学習）シラバスをよく読み、文化人類学における呪術研究について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
12	「呪い」は効くのか？（２）：呪術の効果 （事前学習）シラバスをよく読み、呪術の効果について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
13	「呪い」は効くのか？（３）：タイのヒーリング・カルトの事例 （事前学習）シラバスをよく読み、ヒーリング・カルトについて調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
14	エイズの文化人類学（１）：医療人類学から見たエイズという「病い」 （事前学習）シラバスをよく読み、医療人類学からみたエイズ研究について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
15	エイズの文化人類学（２）：タイとマレーシアの事例 （事前学習）シラバスをよく読み、東南アジア諸国におけるエイズへの対応について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
⑫使用テキスト		片山隆裕編『アジアから観る、考える 文化人類学入門』ナカニシヤ出版、2008年。
⑬参考書・参考資料等		授業時に随時紹介する。
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）		—
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）		—
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）		期末レポート（55％）、授業後のレスポンスシート（30％）、授業への参加度（15％）を総合して評価する。

①課程No.	1
②科目No.	養 14

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
文化人類学Ⅱ	選択必修	2	1,32	小鳥居伸介	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標	世界の諸民族の文化に関する比較研究である文化人類学の基本的諸問題について学び理解する。 1. 文化人類学の基本的な考え方や方法について、適切に説明できる。アジア諸国・地域の文化や社会の特質について、適切に説明できる。 2. 文化人類学について修得した知識を生かしながら、アジア諸社会と諸文化について自律的に考察することができる。 3. 文化人類学の考え方や視点を生かして、異文化に対して積極的かつ自律的に学ぶ姿勢を身につけることができる。				
⑩授業の概要	文化人類学は「フィールドワーク」（現地調査）に基づく、世界の諸民族の文化に関する比較研究である。この授業では主に日本と東アジア・東南アジア諸国およびオーストラリアなどのアジア・太平洋地域の事例によって、開発とマイノリティ、グローバリゼーションとエスニシティ、ポストコロニアル時代の文化研究など、文化人類学が取り組む今日的な諸問題について学び、異文化・現代世界の理解のための知識と関心・態度を身につける。				
⑪授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	はじめに：文化人類学と現代世界 （事前学習）シラバスをよく読み、文化人類学とは何か、何を期末レポートの題材にしたいのかについて考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
2	開発とマイノリティ（１）：開発の問題とマイノリティ・先住民族の現状 （事前学習）シラバスをよく読み、現代世界における開発とマイノリティ・先住民族の問題について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
3	開発とマイノリティ（２）：フィリピンの事例 （事前学習）シラバスをよく読み、フィリピンにおける開発とマイノリティの問題について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
4	開発とマイノリティ（３）：オーストラリアと日本の事例 （事前学習）シラバスをよく読み、オーストラリアと日本における開発とマイノリティの問題について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
5	観光とマイノリティ（１）：観光の発展と観光人類学の課題 （事前学習）シラバスをよく読み、観光とマイノリティの問題について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
6	観光とマイノリティ（２）：タイの山岳少数民族観光 （事前学習）シラバスをよく読み、タイの山岳少数民族観光の問題について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
7	観光とマイノリティ（３）：エコツーリズムの理想と現実～マレーシアの事例から （事前学習）シラバスをよく読み、エコツーリズムの現状と課題について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32
8	グローバル化の中の国家とエスニシティ（１）：東南アジアにおける国家とエスニシティ （事前学習）シラバスをよく読み、グローバル化と国家・エスニシティの問題について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する				1,32

9	グローバル化の中の国家とエスニシティ（２）：インドネシアにおける民族と国家の成り立ち （事前学習）シラバスをよく読み、インドネシアにおける民族と国家の成り立ちについて調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
10	グローバル化の中の国家とエスニシティ（３）：インドネシアと東ティモールの事例 （事前学習）シラバスをよく読み、インドネシアと東ティモールの関係について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
11	グローバル化の中の国家とエスニシティ（４）：インドネシアとアチェの事例 （事前学習）シラバスをよく読み、インドネシアとアチェの関係について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
12	民族の動態とエスニシティ：中国・朝鮮族の事例 （事前学習）シラバスをよく読み、中国社会と中国・朝鮮族の関係について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
13	越境の民族誌：北朝鮮～脱北者の事例と分析 （事前学習）シラバスをよく読み、北朝鮮と脱北者の問題について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
14	移住・観光と日本人（１）：グローバル化と移住・観光～オーストラリア （事前学習）シラバスをよく読み、日本人の移住・観光の地としてのオーストラリアについて調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
15	移住・観光と日本人（２）：移住の地・観光の地としてのオーストラリア （事前学習）シラバスをよく読み、日本人の移住・観光の地としてのオーストラリアについて調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	1,32
⑫使用テキスト		片山隆裕編『アジアから観る、考える 文化人類学入門』ナカニシヤ出版、2008年。
⑬参考書・参考資料等		授業時に随時紹介する。
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）		—
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）		—
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）		期末レポート（55％）、授業後のレスポンスシート（30％）、授業への参加度（15％）を総合して評価する。

①課程No.	1
②科目No.	養 15

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名		④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
異文化間コミュニケーション I		選択必修	2	12,18,32,33	小島居伸介	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標		異文化間コミュニケーションの理論的・実践的な課題について学び、異文化理解の態度とコミュニケーションのスキルを体得する。 1：世界の文化の多様性を理解し、異文化コミュニケーションの理論や実践方法について適切に説明できる。 2：異文化間コミュニケーションの理論と修得した知識を生かしながら、異文化に関する諸問題を自律的に考察し、解決することができる。 3：異文化間コミュニケーションの理論や考え方、視点を生かし、異文化に対して共感的に理解し、学ぶ姿勢を身につけることができる。				
⑩授業の概要		異文化間コミュニケーションの理論的・実践的な課題について、講義とワークショップの実践を通して学び、異文化理解・異文化間コミュニケーションに対する基本的な理論・知識と関心・態度を習得することを目的とする。				
⑪授業計画						
授業回等	各回の授業内容					各回に含む必須 の教育内容番号
1	はじめに：この授業のねらいと進め方 （事前学習）シラバスをよく読み、異文化間コミュニケーションとは何か、何を期末レポートの題材にしたいのかについて考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
2	なぜ今、異文化コミュニケーションか（１）：ボーダレス社会と文化の定義 ー日本・中国・アメリカの文化比較に基づいて （事前学習）シラバスをよく読み、ボーダレス社会と文化の定義について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
3	なぜ今、異文化コミュニケーションか（２）：異文化コミュニケーションのトレーニングとコミュニケーション・スキル （事前学習）シラバスをよく読み、異文化間コミュニケーションのトレーニングとコミュニケーション・スキルについて調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
4	グループ・トレーニング（その１）：異文化の理解 （事前学習）第２回、第３回の授業を振り返り、資料を読み直して、異文化の理解について、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
5	コミュニケーションとは何か（１）：コミュニケーション・モデルと共通の意味の形成ー日本人・中国人・アメリカ人のコミュニケーションの比較から （事前学習）シラバスをよく読み、コミュニケーションとは何かについて調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					12,32,33
6	コミュニケーションとは何か（２）：コミュニケーションの内容面と関係面 （事前学習）シラバスをよく読み、コミュニケーションの内容面と関係面について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					12,32,33
7	グループ・トレーニング（その２）：コミュニケーションのマナー （事前学習）第５回、第６回の授業を振り返り、資料を読み直して、コミュニケーションのマナーについて、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					12,32,33

8	<p>ことばによるコミュニケーション（１）：コミュニケーション・スタイルと自己開示</p> <p>ー日本人・中国人・アメリカ人の比較から</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、コミュニケーション・スタイルと自己開示について調べ、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	12,32,33
9	<p>ことばによるコミュニケーション（２）：相互発話とコンフリクト・マネジメント</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、相互発話とコンフリクト・マネジメントについて調べ、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	12,32,33
10	<p>グループ・トレーニング（その３）：言語コミュニケーション</p> <p>（事前学習）第8回、第9回の授業を振り返り、資料を読み直して、言語コミュニケーションについて、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	12,32,33
11	<p>ことばのないメッセージ：非言語コミュニケーションの重要性と面白さ</p> <p>ー日本・中国・アメリカの比較に基づいて</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、非言語コミュニケーションについて調べ、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	12,32,33
12	<p>グループ・トレーニング（その４）：非言語コミュニケーション</p> <p>（事前学習）第11回の授業を振り返り、資料を読み直して、非言語コミュニケーションについて、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	12,32,33
13	<p>見えない文化：価値観と文化の次元ー日本・中国・アメリカの比較から</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、価値観と文化の次元について調べ、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	32,33
14	<p>異なる文化のとらえ方・接し方：異文化への認識と態度</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、異文化への認識と態度について調べ、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	32,33
15	<p>異文化との出会い：カルチャーショックと異文化適応のモデル</p> <p>（事前学習）シラバスをよく読み、カルチャーショックと異文化適応について調べ、考えておく</p> <p>（事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する</p>	18,32,33
⑫使用テキスト		八代京子ほか『異文化トレーニング』三修社、2009年。
⑬参考書・参考資料等		授業時に随時紹介する。
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		ー
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		ー
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		期末レポート（55%）、授業後のレスポンスシート（30%）、授業への参加度（15%）を総合して評価する。



①課程No.	1
②科目No.	養 16

## 科目の内容（シラバス）

③授業科目名		④必修／選択の別	⑤単位数	⑥含む必須の教育内容番号	⑦担当教員名	⑧実施形態
異文化間コミュニケーションⅡ		選択必修	2	18,32,33	小鳥居伸介	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標		異文化間コミュニケーションの理論的・実践的な課題について学び、異文化理解の態度とコミュニケーションのスキルを体得する。 1：世界の文化の多様性を理解し、異文化コミュニケーションの理論や実践方法について適切に説明できる。 2：異文化間コミュニケーションの理論と修得した知識を生かしながら、異文化に関する諸問題を自律的に考察し、解決することができる。 3：異文化間コミュニケーションの理論や考え方、視点を生かし、異文化に対して共感的に理解し、学ぶ姿勢を身につけることができる。				
⑩授業の概要		異文化間コミュニケーションの理論的・実践的な課題について、講義とワークショップの実践を通して学び、異文化理解・異文化間コミュニケーションに対する基本的な理論・知識と関心・態度を習得することを目的とする。				
⑪授業計画						
授業回等	各回の授業内容					各回に含む必須の教育内容番号
1	はじめに：この授業のねらいと進め方 （事前学習）シラバスをよく読み、異文化間コミュニケーションとは何か、何を期末レポートの題材にしたいのかについて考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
2	見えない文化：価値観と文化的特徴（1） 文化の芯：価値観 （事前学習）シラバスをよく読み、価値観と文化的特徴について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
3	見えない文化：価値観と文化的特徴（2） 文化を方向づけるもの：価値志向 （事前学習）シラバスをよく読み、価値志向について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
4	見えない文化：価値観と文化的特徴（3） 文化を測る：文化の次元① （事前学習）シラバスをよく読み、価値観と文化の次元について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
5	見えない文化：価値観と文化的特徴（4） 文化を測る：文化の次元② （事前学習）シラバスをよく読み、価値観と文化の次元について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
6	見えない文化：価値観と文化的特徴（5） 文化を測る：文化の次元③ グループトレーニングその1 （事前学習）第2回～第5回の授業を振り返り、資料を読み直して、価値観と文化的特徴について、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33
7	異なる文化の捉え方・接し方：異文化の理解（1） 違いをどうとらえるか：異文化の認識 （事前学習）シラバスをよく読み、異文化の認識について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する					32,33

8	異なる文化の捉え方・接し方：異文化の理解（2） 違いをどうとらえるか：異文化への態度 （事前学習）シラバスをよく読み、異文化への態度について調べておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	32,33
9	異なる文化の捉え方・接し方：異文化の理解（3） より良い理解を目指して① （事前学習）シラバスをよく読み、より良い異文化理解のあり方について考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	32,33
10	異なる文化の捉え方・接し方：異文化の理解（4） より良い理解を目指して② グループトレーニングその2 （事前学習）第7回～第9回の授業を振り返り、資料を読み直して、異文化の理解について、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	32,33
11	異文化との出会い：カルチャーショックと異文化適応（1） カルチャーショックとは何か：異文化適応プロセス （事前学習）シラバスをよく読み、カルチャーショックと異文化適応について考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	18,32,33
12	異文化との出会い：カルチャーショックと異文化適応（2） カルチャーショックを越えて：異文化適応のモデル （事前学習）シラバスをよく読み、異文化適応のモデルについて調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	18,32,33
13	異文化との出会い：カルチャーショックと異文化適応（3） 多文化への道：異文化適性を養うために① （事前学習）シラバスをよく読み、異文化適性を養う方法について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	18,32,33
14	異文化との出会い：カルチャーショックと異文化適応（4） 多文化への道：異文化適性を養うために② （事前学習）シラバスをよく読み、異文化適性を養う方法について調べ、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	18,32,33
15	グループトレーニングその3 授業の総括 （事前学習）第11回～第14回の授業を振り返り、資料を読み直して、カルチャーショックと異文化適応について、考えておく （事後学習）講義テーマと内容について振り返り、レスポンスシートを作成・提出する	32,33
⑫使用テキスト		八代京子ほか『異文化トレーニング』三修社、2009年。
⑬参考書・参考資料等		授業時に随時紹介する。
⑭同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）		—
⑮学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）		—
⑯学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）		期末レポート（55%）、授業後のレスポンスシート（30%）、授業への参加度（15%）を総合して評価する。